

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194200085		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム 育成会まごころ 2階		
所在地	野付郡別海町別海川上町20番地11		
自己評価作成日	令和 4 年12月21日	評価結果市町村受理日	令和5 年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosoCd=0194200085-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム 育成会まごころは人材確保対策で、外国人1名の受入れを行っています。認知症基礎研修、介護初任者研修を終了しています。未就学児のいる子育て世代の採用も積極的に行っています。入居者様は外国人の職員や小さな子供との交流を楽しみにされています。入居者様とご家族との面会はリモート、窓際で行っています。職員はコロナ感染予防対策を行い感染者が出た場合の対策を話し合っています。全事業所の職員がオンデマンド研修で同じことを学んでいます。合同管理者会議についてはzoomで行っていましたが、今年はコロナ感染予防対策をしながら集合で行いました。事業所間で情報交換を行いそれぞれの事業所で介護に活かしています。内科、心療内科の訪問診療が行われており施設看護師と病院との連携が取れています。生活機能アセスメントを行うことで入居者様の運動機能維持、向上が見られています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年1月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が確認し実践できるように、朝の申し送り後に理念の唱和を実施している。フロアに掲示。新人オリエンテーションで、重要性について説明している。現在理念の唱和は中止中。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。町から入居者に配布される牛乳を届けて頂いたり、避難訓練の参加を行っています。お祭りには施設前で、手踊りや神輿担ぎを披露して頂いています。今年中止		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や説明は随時行っており、認知症を理解してもらう機会として高校生のインターンシップを受け入れている。今年中止		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催し、入居者の状況説明を行い、意見を求めサービス向上に活かせるように取り組んでいます。現在、書面開催		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者と日頃から連絡を取り合っており、相談も出来ています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員全員が研修に参加しレポートなどを通して理解の確認を行っている。また、ベッド柵や人感センサーについては、必要であるかアセスメントを行います。全職員に小冊子配布。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会参加者が、他職員に学んだことを伝えるとともに、資料を各フロアに置きいつでも見る事が出来るようにしています。虐待を考える小冊子を全職員に配布。		

グループホーム育成会まごころ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度については、フォローアップ研修などに参加しているが、必要とする入居者が現在はいない為活用に至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設見学をして頂き、契約時には読み上げ説明を行い不明点など質問を受け、納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望は管理者、ケアマネ、リーダー、職員がお話を聞き運営に反映できるように努めています。玄関カウンターにご意見箱を設置しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの他、管理者、代表者との個人面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は業務日報により、職員の状況把握を行っています。職員の交流の為に、費用の一部負担を行っています。職員交流会は今年は中止。有給休暇が取れるようにシフト調整を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価(チェックシート)を行い、リーダーの評価との比較により、各職員がどこに力を入れるべきかを知るようにしています。短時間ではあるが、ケアマネ・看護師が施設内研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の参加時に、他事業所職員との交流を持つことが出来き、気付きや違いを知り事からサービスの質の向上に繋げる事が出来ています。		

グループホーム育成会まごころ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談の際、ご本人・ご家族からのお話を聞き担当ケアマネからの情報を頂きます。利用者の不安が解消されるように、困っている事を明確にし相談を重ねます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の人の家族の思いを受け止め、安心して頂けるように、施設を利用する事でどのような支援を受けられるかをお話します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活に慣れていただく事が、ご本人・家族にとって安心であり、ご本人の普段の会話から思いを探り、出来る事・出来ない事の見極めを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所仕事や掃除など出来る事は行って頂きます。経験談を聞かせて頂き、職員は学ぶことも多くあります。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	要望があれば、電話をすることが出来ます。ご家族には来訪時や電話で利用者の様子や言葉を報告・相談する事で協力関係を築けるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容師の訪問で、ヘアカットされています。家族同伴で行きつけの美容室に行かれています。ボランティアで訪問して下さる人の中には、知人・友人がいらっしゃる楽しみされています。コロナの感染状況を見極めながら実施。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態が、日や時間により変化するで注意深く見守りを行い、職員が間に入り交流が持てるようにしています。お茶やレクに参加して頂けるように声かけを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為退居された利用者のお見舞いや、ご家族が施設訪問などを行って下さいませ。(現在、お見舞い中止)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に意向を確認します。困難な場合は、家族に相談確認を行いご本人本位で検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族からの聞き取りや会話の中から、これまでの暮らしの把握を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は個人記録を確認し、体調や行動の変化を確認します。口頭による申し送りでも、情報交換や共有を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング(毎月)や家族対応は担当職員が行いますが、毎月のミーティング・カンファレンスで意見を出し合っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	服薬管理表や個人記録などを利用し、情報を共有し実践や介護計画に活かせるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望で車いすの貸し出しや、車いす対応車での送迎を行っています。ご家族対応の定期受診も、ご家族の都合で職員が行う事もあります。ご家族の急な宿泊も受け入れる体制をとっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高校生の施設見学・お神輿・手踊りの見学、マラソン応援、散歩、外出等学校や地域住民との関りは持っています。感染状況により、適宜柔軟に対応しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望する医療機関を選択しています。施設では内科・心療内科の訪問心療を行っており、ご家族が希望された場合受ける事が出来ます。施設での各種予防接種も行われています。		

グループホーム育成会まごころ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診には日常生活状況報告書を作成。体調変化時には看護職員に報告し、指示を受けます。職員は看護職員との連絡ノートなどを活用しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーの作成を行っています。病院・家族との連絡を取り、病状の確認を行います。入院中の見舞いを行い、退院時には注意すべき点の確認を行います。見舞いは中止。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成しています。遠方のご家族に関しては、緊急時の対応について、取決め書を作成しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生対応マニュアルは、各フロア個人ファイルに貼付し慌てず迅速に対応できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施、町内の災害避難訓練の参加を行っています。町内の訓練は中止。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを念頭に置き、誇りやプライバシーを損ねないような声かけ、対応を考えながら行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で、ご本人の思いや希望を察するようにし、いくつかの選択肢を提示し自己決定できるような声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・就寝の声かけは行っているが、ご本人のペースで過ごしていただいている。レク・体操・外出の声かけは行うが強制する事はありません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはご本人に選んでいただきますが、ご自分で決められない方は職員と一緒に選びます。		

グループホーム育成会まごころ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや後片付けを、利用者のこだわりで行えるように、職員の見守りの中行って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や義歯の状況に合わせて食事形態・水分量を考えています。食事・水分摂取量は記録し、一日の摂取量を把握。適切な栄養管理が行えるように栄養スクリーニングを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、見守りや介助を行っています。夕食後は歯ブラシ・コップの消毒を毎日行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から排泄リズムを把握しています。訴えの無い入居者には時間で誘導し、トイレで排尿できるように支援しています。排泄の失敗の少ない利用者は積極的にリハビリパンツの使用を減らしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘で食欲不振や、不穏が起きる事を理解しています。排便確認を嫌がる入居者には、腹痛の有無を確認します。食物繊維を積極的に取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤の使用でお風呂を楽しめるようにしています。個々の好みの温度や、希望する入浴時間に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見て休息をとって頂くこともありますが、日中は活動的に過ごしていただき、夜間良眠できるようにしています。就寝前には居室の温度・湿度に気を配ります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を活用しています。服薬時には名前・服薬タイミングの確認を行います。薬情をファイルし、変更時には細かく記録。全職員が把握できるようにし、症状の変化の見守りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力が発揮できるように、出来る事・出来ない事の把握をし、お手伝いをお願いしています。生活歴の中から継続できる活動は、積極的に行って頂き張り合いや達成感を感じて頂けるようにしています。		

グループホーム育成会まごころ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の勤務状況により出来ない事もありますがお散歩などを行っています。お花見や紅葉見学等の予定も組まれておりますが、コロナ禍により現在実施出来ず。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は事務所金庫にてお預かりしています。ご本人の希望で職員見守りの中、買い物が出ます。現在は外出はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人希望で、ご家族などに電話をかけられるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓や清潔を心がけ、利用者にとって危険がないようにしています。季節の切り花や、手作り作品を飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のあと、食堂では気の合った入居者同士でお喋りを楽しまれたり、テレビの視聴を楽しみにされている方はリビングで過ごされたりと、思い思いに過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持参して頂くようにしています。居室には、ご家族からの贈り物や写真を飾られています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの施設内を、見守りの中歩かれる事を日課としている入居者がいます。迷う事が無いように居室・トイレには室名札を付けています。廊下やトイレ内には手すりの設置で、安全に生活が送れるようになっていきます。		